

—夏季大学雑感—

第14回夏季大学『新しい気象』講座雑感

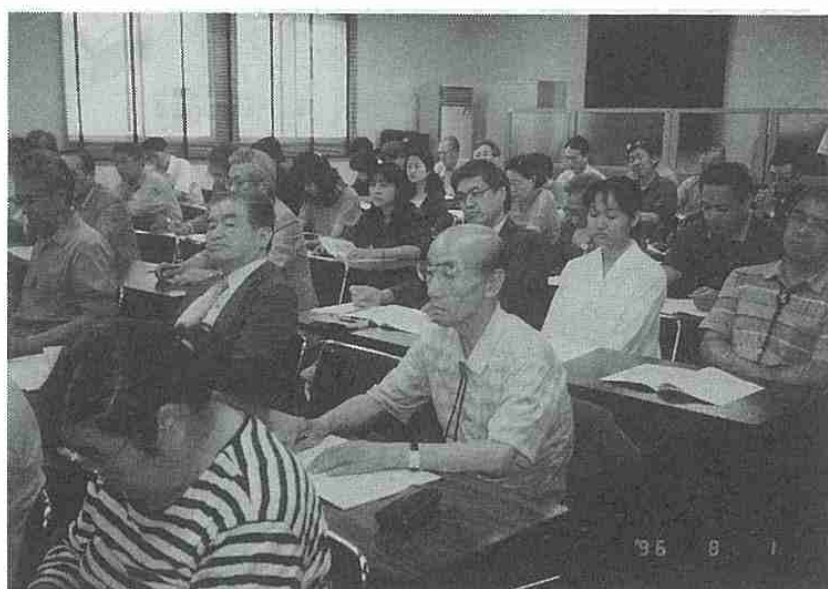
(財)日本気象協会北海道本部 若林徳司

第14回を迎えた夏季大学も7月31日、8月1日の両日に渡り札幌市青少年科学館、札幌管区気象台の各会場をお借りし、盛況裡のうちに今年も無事終了しました。(申込者66名、1日目58名、2日目51名参加)

今年の講義は気象分野が2題、雪氷分野、天文分野から、それぞれ1題としました。なかでも、1993年の冷夏、1994年の暑夏、そしてこの冬の札幌での記録的な積雪など、最近、平年値と大きく異なる現象が出現していることから北海道大学大学院地球環境科学研究所、松野太郎教授に気候変動をもたらす「気候システム」についてお話しいただいたことは実にタイムリーであり、かつ、人間活動の影響も少なくないことを知る良い機会であったと思います。また、北海道大学低温科学研究所、西村浩一助手には雪崩発生のメカニズムと、ご自身の研究の一端をご披露いただきました。多雪地帯である北海道を考える時、研究の成果が近い将来防災情報におおいに役立つ日がくることを期待したいと思います。

さて、来年は夏季大学も15回目という節目を迎える予定ですが、講義会場として期待される札幌市青少年科学館の研修室増築工事は、当初の完成予定である平成9年春をめざし順調に進んでいることが確認できました。講義会場の狭隘、それと暑さ対策の悩みも、やっとな解消できそうです。

最後になりましたが、この講座の開催に当たり、会場準備、見学会の説明役などを快く引き受けていただいた札幌市青少年科学館の学芸課、札幌管区気象台業務課の皆さんに、心からお礼申し上げます。



第14回夏季大学『新しい気象』講座受講風景